

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 彦根市立中央中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒522-0054

滋賀県彦根市西今町1207

E-mail chuo@mx.hikone.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 244 名 女子 233 名 合計 477 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、「世界につながる 未来へつなぐ 拓心プロジェクト」として、ESDを学校教育における総合的な学習の中核に据え、様々な実践を通して、心豊かでたくましい生徒の育成を目標に取り組みを行ってきた。

具体的には、持続可能な社会を担う人づくりと一人ひとりの人権を大切にする集団づくりを柱に、①現代社会の問題を解決する資質や能力を育成すること、②問題解決や探求活動に主体的に取り組み態度を育成すること、③他校(国内外)との交流を推進すること、④互いの違いや良さを認め合い、いじめや差別を許さない人権教育を推進することを目指して取り組みを進めてきた。

① 現代社会の問題を解決する資質や能力を育成する取り組み

生徒総会において今年度のユネスコスクールの活動計画を発表し、生徒会活動の一環として、ポリオワクチン購入のためのペットボトルキャップの回収活動と企業の力を借りて難民キャンプに子ども服を送る活動を学区内の校園や公民館等の協力を得ながら取り組みを行った。

② 問題解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育成する取り組み

1年生では、ふるさと探究学習においてグループ別に職場訪問を行い、地元彦根の良さや課題と職業についての聞き取り調査を行った。このことを次年度2年生での職場体験学習に生かし、主体的な取り組みとなるようにつなげている。また、生徒会活動において今年度よりユニセフ募金活動を始めた。彦根市人権教育研究大会会場や地域での夏祭り、大型量販店での募金活動を主体的に行うことができた。

③ 他校との交流を推進する取り組み

今年度は、沖縄県の北谷中学校との交流が中心となった。4月の修学旅行時には、北谷中学校の生徒会役員のメンバーが本校の宿泊先を訪れ、本校3年生と交流を図ることができた。その後も年間を通して生徒会間でのスカイプ会議を重ねてきた。その中で両校が共通して取り組める内容を検討し、その結果、互いの全校生徒の写真を交換して貼り合わせ「絆」という文字を完成させた。また、近隣の高校の文化祭へ参加し、本校ユネスコスクールの活動発表を行った。

④ いじめや差別を許さない取り組み

「中央中人権宣言」を受け、「学級の人権宣言」を話し合いによって決定し、生徒総会において全校の交流を行った。また、「心の授業」「命の授業」を計画的に進めるとともに、12月の人権週間では、生徒と保護者合同での講演会を開催し、北村年子さんより「しあわせはすぐそこにある ～あなたにあえてよかった」の講演を聴講した。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ユニセフに関するウェブサイト、資料

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校経営方針の重点課題としてESDの推進を位置づけ、ユネスコスクールの活動を推進の柱としている。

各教科等年間指導計画では、どの教科においても指導の力点にESDの視点で再構築を行い、グループ学習により生徒間での学びの意欲が持てるように工夫改善を行ってきた。特に総合的な学習の時間は、ESDの目標とする「様々な課題を自らの問題として捉え、身近なことから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手を育成する」ことにおいて重要な学習であるという位置づけで行ってきたところである。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校経営管理全体計画にESDの推進を位置づけ、年度初めに学校全体で共通理解を図って取り組んできた。総合的な学習の時間における「拓心プロジェクト」や生徒会活動における全体的な取り組みについては、内容や方法等について全体で議論しながら進めてきたところである。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎学期の学校評価により、ESDの視点による教育課程の構築、ユネスコスクールの活動推進についての評価を行っている。その結果、学習機会は豊富になったが今後どのように深めていくか再構築をし、系統的に発展させていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校ホームページの新設、生徒会だよりによる校内への発信と学校だよりによる校内外への発信を主に行ってきた。特に学校だよりについては、学区内の各地域への回覧を行うとともに市内の他校へも発信していることから、本校での取り組みについて理解が広められていると考えている。そのことから、地域からの理解も得ながら取り組みが進められてきた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

彦根市ユニセフ協会の協力を得ながら、市内の高校等での文化祭で取り組み発表を行ってきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成29年度は、沖縄県の北谷中学校との交流を年間通して継続的に行うことができた。具体的には、修学旅行時の交流とスカイプを活用して、全校生徒による共同制作の交流を深めてきたところである。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

平成29年度から取り組んだユニセフ募金活動をさらに拡大できる方向で検討したい。具体的には今年度から始まっている市内生徒会の取り組みにつなげ、他校への取り組みへと広げることでユネスコスクールの取り組みについての理解につなげていきたいと考えている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 総合的な学習の時間や生徒会活動などの教育活動を通して、世界に目を向けて課題を発見し、解決方法を思考し、未来へつなげられるよう具体的な行動力を身につける。
- ・ユニセフ街頭募金活動、校内募金活動
 - ・ユニクロ服のカプロジェクトの取り組み
 - ・ペットボトルキャップ回収活動
- ② 他校との交流活動を推進する。
- ・北谷中学校との交流
（修学旅行交流、スカイプ交流、共同制作交流）
- ③ 地域交流活動を推進する。
- ・地域支援ボランティアとの校内共同活動
 - ・地域活動への積極的なボランティア参画